



子ども大学かわごえ
CUK だより

第20号 NO.11072

2011年7月30日

運命が明日何を決定するかを問うな。瞬間こそわれわれのものだ。

さあ、瞬間を味わおうではないか。

リュッケルト

第4期生の募集状況

5月23日から6月1日にかけて23年度（第4期生）の学生募集を川越市、鶴ヶ島市、川島町の各教育委員会のご協力で市内・町内45校の4～6年生全員へ11,500部の募集案内を配布しました。その結果6月10日の募集締切り日に定員170名に対して286人の子どもたちから応募がありました。子ども大学かわごえ（CUK）では保護者も受講するので、学生170人の受入れが限度です。やむなく抽選の結果183人を合格としました。

内訳は次の通りです。

地域別	川越市	鶴ヶ島市	さいたま市	その他	合計
人数 (%)	120 (66)	35 (19)	3 (2)	25 (13)	183 (100)
学年別	4年生	5年生	6年生		
人数 (%)	62 (34)	66 (36)	54 (30)		183 (100)

募集案内を配布した川越、鶴ヶ島、川島の3地域以外からも応募がありましたが、これは毎日新聞の報道と口コミによるものです。

7月9日「科学映画と親睦の会」

於東洋大学 川越キャンパス 5号館511教室

NPO法人子ども大学かわごえ 事務局次長 松本豊氏

9日の催しには学生76人、保護者10人、スタッフ4人が参加しました。1時間目の科学映画の会では「カブトムシの研究」、「特急つばめで働く人たち」、「よみがえる金色堂」の3本の映画を上映しました。50分の授業の中に合計1時間半に及ぶ映画を3本も詰め込んだため、早送りをして途中をとばしとばし上映したので、観ている者にフラストレーションを起こさせたのはマイナスでした。30日に第2回目の「科学映画と親睦の会2」を行いますが、その際は映画は2本に絞って、鑑賞後ディスカッションの時間を設けるなど運営の改善をしたいと考えます。

以上のように映画の会は運営上のまずさはありませんでしたが、映画鑑賞後に書いてもらった子どもたちの感想を読んでもみると、かれらなりに関心をもってしっかり観てくれたことがわかりました。

保護者の一部の方も感想を書いてくれました。そのうちの一人の保護者が次のようなコメントを述べていました。

「教えたいと思っている事はなんだったのでしょうか？こんなに古い映画を一方向的に観せられても、何人の子どもが興味をもつでしょうか？とてもつまらなかった。今後を期待します。」

このコメントに対して、CUKの事務局スタッフから次のように回答をいたしました。

「私たちは去年までの経験で、大人の方はすぐ結論を求める傾向があることを理解しています。ご存知の通り、小学校と違って大学の学問では、自然科学、人文科学を問わず、正解が一つということとは稀です。政治の世界で政党がいくつもあるように、様々な解があります。したがって様々な角度から課題に取り組む必要があります。子ども大学かわごえも、小学校と違って大学ですから、テーマにもよりますが一つの正解を準備して授業をするとは限りません。



理屈はさておき、添付の子どもたちの感想を読んでもらうと、子どもたちが3つの映画からいかに多くのことを学んだかよくわかります。特急つばめの映画を見て4年生の学生が『さい初にいろいろな手つづきをとってみんなのために働くのがたいへんだと思った』と洞察し、金色堂の修復について『たくさんの人びとのきょうりょくによってすてきな建物がつくられた』と気づいており、これも4年生です。子どもたちは（もちろん全部ではないですが）大人の想像を超える理解力をもっていることがわかります。

ところで、子どもたちの学習について保護者のみなさまにお願いがあります。

映画を見て子どもたちは新しい知識を獲得した一方、多くの疑問を持っています。疑問を持つことは、学問をすることの第1歩です。子どもたちの疑問をそのままにするのではなく、新しい真理を見つけるのを支援する必要があります。この役割をお父さん、お母さん方をお願いしたいと思います。



感想文の中で子どもが特に関心をもつ疑問・テーマに親子で取り組んでいただきたいのです。百科事典を利用するなり、インターネットで情報を探すなり、参考書を買う／借りるなりの方法によって、一緒に解答を求めていただきたいのです。その結果少しでもまとまった記録ができれば、ぜひCUK事務局へメール等で送っていただきたいのです。そうした学習の成果をまとめて何らかの機会に公表したいと思っています。一部になるかもしれませんが、CUK冊子第X号に掲載

するとか、学期末のシンポジウム等で発表したいと思います。

常々子ども大学かわごえ（CUK）の発展は保護者のご協力によって実現することを訴えてきましたが、それは運営面だけでなく教育の中身においても該当することです。みなさまのご支援をお願いいたします。」

話が少し廻りくどくなりましたが、子どもたちの感想を一部紹介します。

1. 「カブトムシの研究」

- 1) 一番印象に残ったことは何だろう？
 - ・カブトムシはとっても命が短い
 - ・カブトムシは幼虫から3回もだっぴして成虫になる
 - ・カブトムシはじぶんのからだの100 ばいもおもいものをもてる
- 2) 新しく発見したことがありますか？
 - ・成虫になるまで1年も土の中にいる
 - ・オスにはツノがあって、メスにはなくいっぱい毛がはえている
 - ・カブトムシは夜にたくさん動き、木や草をたべる
 - ・たまごは直径3 ミリで、ちょっと時間がたつと2倍の大きさになる
- 3) もっと知りたいことがありますか？
 - ・カブトムシに血があるのか
 - ・メスはなぜたい肥にたまごを生むのか
 - ・カブトムシはなんで鼻でいきをしないのか
- 4) その他に感じたことを自由に書いてください
 - ・この映画はいろんなこん虫が出てくるのでおもしろかった
 - ・今度カブトムシを見つけたら、映画をもとに観察してみたい
 - ・カブトムシの1年の生活がとてもわかりやすかった

2. 「特急つばめを動かす人たち」

- 1) 一番印象に残ったこと
 - ・特急つばめは多くの人に支えられて走っている
 - ・石炭を一生懸命入れて走っていた
 - ・運転手の制服が学ランに似ていた
 - ・運転手がいろいろな機械をさわっていそがしく運転している
 - ・さい初にいろいろな手つづきをとって、みんなのために働くのがたいへんだ
- 2) 新しく発見したこと
 - ・つばめは電気機関車にひっぱられて名古屋へ行き、SLが大阪までつれていった
 - ・SLは石炭を入れて動く
 - ・食堂車があって、女の人が食べものをくばっていた
 - ・お客さんがおりる時に女の人がれいをするのが、飛行機みたいだった
 - ・列車に番号があるのにおどろいた
- 3) もっと知りたいこと
 - ・なぜつばめという名前なのか
 - ・つばめの長さや高さ、はやさを知りたい
 - ・つばめは1日に何本走っているのか
 - ・運転手はぶつぶつ何を言っているのか
- 4) その他に感じたこと
 - ・昔はなぜかんきょうに悪い石炭を使っていたのか
 - ・なぜつばめはそんなにけむりをだすのか
 - ・昔はまどから顔を出していいことにおどろいた



3. 「よみがえる金色堂」

1) 一番印象に残ったこと

- ・金色堂は古い歴史と喜び悲しみがつまっている
- ・全部が手作業だったのがすごかった
- ・たくさんの人びとのきょうりよくによってすてきな建物がつくられた
- ・昔の形とそっくり同じ形に建てなおした

2) 新しく発見したこと

- ・一つ一つ上手にくりぬいて、われているものはすてないでもう一度やりなおす
- ・形を写しとるのに和紙を使っていた
- ・細かいところまですべて手作業

3) もっと知りたいこと

- ・なぜ柱にぬるのにふつうのペンキや絵のぐではいけないのか
- ・なぜ金色堂という名前になったのか
- ・どんな人たちが昔金色堂をつくったのか
- ・金色堂は完成までにどれだけ時間がかかったのか
- ・お堂にはどんな人が住んでいたのか



4) その他に感じたこと

- ・なぜふくげんしようとおもったんですか
- ・むかしのようによみがえらせることは大変だ
- ・なぜ金いろなのか
- ・なぜ金はぬらないでこな（金粉）をかけるのか

2 時間目は親睦の会

新入生同士の親睦をはかるため2時間目は教室から中庭へ出て、松本先生の指導でゲームを行いました。ゲームは、「おいで一緒に」、「となりのトトロ」、「ウィンク殺人事件」、「猛獣狩り」でした。暑い日でしたが、みんな建物の日陰で元気に遊びました。

第2回目の「科学映画と親睦の会」は7月30日（土）再度開かれます。出席者は80人程度で教室のスペースに余裕があるので、手伝っていただけるようであれば保護者も授業に参加できます。

7月の授業はこれでお終いで、8月は20日（土）に川越工業高校と共同で～先生が教師の「ものづくり教室」～へ全員で参加し、26日（金）は学生50名のグループが池袋の造幣局と凸版印刷㈱の印刷博物館を訪問します。

子ども大学かわごえ

学長 望月 修

NPO法人子ども大学かわごえ
〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6
霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>
TEL 080-2053-2991 (事務局直通)
FAX 049-233-1640F
E_MAIL info@cuk.or.jp